

新たな息吹 SINCE2007



20th Anniversary

さわの里だより



横浜市立さわの里小学校 学校だより

URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sawanosato>

6月号



「りんごは赤じゃない」

校長

「りんごは何色？」

「赤！」

「レモンは？」

「黄色！」

「キュウリは？」

「みどり！」

そして、太田は子どもたちの目をじっと見て、ひと言質問する。

「ほんと？」

子どもたちは、一瞬ハッとする。

山本美芽著「りんごは赤じゃない～正しいプライドの育て方～」（新潮文庫）より引用

この文章は、山本美芽著「りんごは赤じゃない～正しいプライドの育て方～」という本の一節です。この本は、太田恵美子さんという、一人の中学校美術教師の実践を描いたノンフィクションで、2002年出版ですが、「総合的な学習の時間」の先駆けとして注目を浴びた本でもあります。

さて、紹介した一節、子供たちは何に「一瞬ハッと」したのでしょいか。りんごを実際手に取って見つめてみましょう。そう、りんごは実際色々な色の種類があり、たとえ単色でも濃淡等混ざり合った複雑な色をしています。りんごの色を「赤」と言うてしまうのは、「りんごは赤いに決まっている。」という先入観があるからではないでしょうか。「りんごは赤じゃない」という見方は、やがてものの本質を見抜く感覚へと育っていく。そして、人やものがそれぞれ「違う」ことを感じ取れるようになると、それらを表面的な色な形、数値などで分類することに違和感を感じる……。ものの本質を見抜く感覚は、子供たちの自尊心を正しく育てるために必要不可欠なものであり、ものの本質を自分の目で見て、感じて、考える力は、自尊心を育て、正しいプライドを獲得するために欠かせない羅針盤ともなると、この本は太田先生の日々の実践を通して教えてくれています。



「りんごは赤じゃない」。この言葉は、私たち大人にも、人やものを見えやすい部分だけで判断していないかを問いかけているとも思います。子供たちは(人は)、一つの色で見られてしまい、塗られてしまい、色分けされてしまうような存在ではないはず。

今年度がスタートして早2か月が過ぎようとしています。4月からの出会いを振り返り、それぞれの心の中に「リンゴは赤！」「キュウリはみどり！」という見方をしていないかどうか、一度問うてみるいい時期ではないでしょうか。子供たちも、そして私たちも、一面的な評価ではなく、その人らしさや可能性を含めて見つめられるよう、日々の教育活動を大切にしていきたいと思います。